

大学生・若者とコミュニティ

話題提供者 : 佐々木豊志(くりこま高原自然学校 代表)

末松和子(東北大学)

布柴達男(東北大学)

コメンテータ : 高嶋克子(東京女子大学)

北島茂樹(産業医科大学)

司会 : 吉武清實(東北大学)

企画 : 第 12 回大会準備委員会

企画趣旨

今日、従来のしくみのひずみと行き詰まりが、社会のさまざまなシステムについて指摘され、social change(諸々の社会システムの作り直し)が強く求められる時代状況にある。一方に、学校における競争からはずれ、不適応状態、あるいはニート・引きこもり状態となる学生・若者の存在がある。そこには、メンタルヘルスの問題や格差と貧困の問題も絡むようになってきている。各システムの構成メンバーが自らシステムの change(作り変え)にコミットメントするようになることが望ましいことだが、そのような文化的風土的成熟には、コラボレーションを模索する体験が当事者を越えて共有されて、集団として記憶されていく必要があると思われる。この作業は、たてのつながりとしても、すなわち中高年世代と若者世代との間でも不断に行われていく必要がある。コミュニティが抱える問題への大学生・若者のコミットメントと世代間のコラボレーションという大きな課題について、くりこま自然学校と東北大学というふたつの小さなコミュニティにおけるとりくみの事例をもとに、皆様と考える機会とすることを願い、企画した。

話題提供者 : 佐々木豊志(くりこま高原自然学校 代表)

くりこま高原自然学校は自然体験活動や冒険体験活動を通じて青少年の健全育成を行う民間の野外教育事業所として活動を始めた。主催する長期キャンプに不登校が参加したことをきっかけに不登校・引きこもり・ニートのための長期寄宿制度を始めた。以後、8年間で約130名の寄宿生を受け入れて、自然環境や農山村の社会環境を活用した生活体験・自然体験を活かして、悩みを抱える青少年の課題解決を支援してきた。特に、冒険教育という体験教育の手法「未知のこと、

結果が保証されないことに自分の意志で一步踏み出すことができる人づくり」をベースに取り組んできた。平成 18 年からは厚生労働省からの委嘱事業であるニートの就労支援の「若者自立塾」も実施している。近年は教育だけでは解決に限界があるケースを他の関係機関との連携のあり方を模索している。

今回は、ホリスティックな視点で、自立を支援するための新たな連携を検討したい。

話題提供者： 末松和子(東北大学大学院経済学研究科准教授)

報告者は、東北大学大学院経済学研究科国際交流支援室で、留学生への学習・生活・就職支援、日本人学生への留学相談・留学予備教育、国際教育、国際交流等を担当し、種々のニーズに応える取り組みを行ってきた。日本では、まだ大学生の大学コミュニティへのコミットメントは低く学生のコミットメントを引き出す仕掛けが必要とされる状況にある。東北大学において報告者がこれまで取り組んできた事例を紹介しながら、大学生のコミュニティへの関わりの問題をフロアの皆さんとともに考える機会としたい。

話題提供者： 布柴達男(東北大学大学院生命科学研究科准教授)

東北大学では男女共同参画の取り組みの一つとして、女性大学院生による「サイエンス・エンジェル(SA)」事業を進めてきた。この問題の背後には、大学院に進んではじめて気付くことになる男性によって作られてきた研究者の研究・ライフスタイルや理系研究室風土をどう変容させていくか、またマイノリティとなって孤立し研究職の夢を断念することになりがちな女性大学院生をどうエンカレッジしていくかという課題が関係している。サイエンス・エンジェルの活動は、理系女性学生のコミュニティを築くもの(横のつながり)であり、後輩高校生にロールモデルを提示するもの(縦のつながり)であった。SAへの支援の係わりから見えてきた事柄を皆様に紹介し、コミュニティへの学生のコミットメントの問題を考えてみたい。

コメンテータ： 高嶋克子(東京女子大学)

北島茂樹(産業医科大学)

大学生・若者とコミュニティのシステムの change(作り変え)という問題に関して、話題提供者からの報告をもとに、コミュニティ心理学的立場からの議論を試みたい。

司会： 吉武清實(東北大学)